

タンチョウ再発見から100年の歩み

江戸時代には道内各地で繁殖し本州でもよく見かけられたタンチョウ。明治時代には絶滅したと思われていましたが、1924年10月に鶴居村チルワツナイで10数羽が再発見され、今年で100年が経ちます。

鶴居村の象徴であるタンチョウが再発見されてから100年。今月号では、先人の方々の深い愛情とたゆまぬ努力の歩みを紹介します。詳細は右記QRから村勢要覧をご覧ください。

2月にはタンチョウ再発見フォーラムも開催予定です。ぜひお越しください。



1985

鶴居村タンチョウ愛護会が発足



1974

下雪裡小学校が閉校し、現鶴見台に給餌が引き継がれる



1987

日本野鳥の会「鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ」が開設



1993

タンチョウが種の保存法による国内希少野生動物種に指定され、当時の環境庁（現環境省）などが保護増殖事業計画を作成

鶴居村の
出来事

タンチョウに
関わる出来事



鶴居村勢要覧



1924

絶滅したと思われていたタン
チョウが鶴居村チルワツナイ
で10数羽再発見される



1952

・幌呂小学校で給餌に成功
・「釧路丹頂鶴繁殖地」が「釧路の
丹頂およびその繁殖地に名称変更
し、特別天然記念物に指定



1967

釧路湿原の一部が「天然記念物釧
路湿原」に、タンチョウが地域を
定めない特別天然記念物に指定



1962

下雪裡小学校で給餌を始める



2008

タンチョウコミュニティが発足



2018

官民一体となって鶴居村と
タンチョウとの共生に向け
た取り組みを進める「タン
チョウと共生するむらづく
り推進会議」が発足



2024